

【様式1】

概要書

<p>研究名</p>	<p>山林からの害獣捕獲状況通知方法に関する研究</p>
<p>民間機関等 (相手方)の名称</p>	<p>十和コンサルタント有限会社</p>
<p>研究の概要</p>	<p>十和コンサルタント有限会社は、下水道設計・測量に加え、鳥獣の捕獲及び生息数調査に関する事業を展開している。当社は、猟友会玉島分会や倉敷市有害鳥獣駆除班協議会として農作物被害をもたらす害鳥や害獣の捕獲駆除活動のほか有害鳥獣捕獲許可等を受けた者（以下「許可者」と略す）への指導もしている。</p> <p>許可者は農作物被害を減らすべく、山林に罠を仕掛け有害鳥獣を捕獲しているが、仕掛けた罠の捕獲状況確認をするためにおこなう山林への頻繁な巡回は負担が大きいため、継続的な捕獲ができない課題を抱えている。</p> <p>そこで、本研究では、許可者の山林に仕掛けた害獣の罠の巡回負担軽減を図るために、山林に設置している害獣捕獲用罠の捕獲状況をとらえた画像を1日1回、数km離れた自宅など遠隔地に通知できる実用的なシステムを提案することとした。</p> <p>当初の通信システムは、室内では良好にもかかわらず山林では十分な性能を発揮させることができなかった。また、機能をすべて盛り込むと使いにくくなった。そのため、試作機を製作・実験しては、害獣監視上の留意点や許可者の使い勝手を踏まえた改良をすることを繰り返し、試作機が6種を数えるほどになった。</p> <p>試作機のうち後述する3種①②③は実用に耐えられるものとなった。①は罠の画像を1日1回ネットに通知するシステム、②は箱罠の動物侵入で扉をおろし、その後画像をネットに通知するシステム、③は猟友会保有のくくり罠の動作通知無線の音を受けてネット通知するシステムである。①②③いずれのシステムも簡単操作で使うことができる低価格のものとした。①と②は、山林に複数台設置しても日光や雨風・衝撃・寒暖の悪影響を受けずに安定して7日間以上動作する。③はインターネットの通じない山林で威力を発揮する。なかでもシステム②は、音や光を放つことがない装置にしたため動物に気づかれにくくなったこともあり、令和3年3月15日までにイノシシの成獣4頭の捕獲という成果を上げた。</p> <p>実証実験の積み重ねを通して、実用的なシステムを構築することができたことから、「山林からの害獣捕獲状況通知方法」に対する本研究の提案内容は、許可者の課題克服につながるものになったと考えられる。</p>